

戸無瀬の滝

戸無瀬の滝は渡月橋の上流にあり、嵐山から大堰川に流れ落ちる滝で、天龍寺蔵王権現堂の背後に位置していた。

平安時代から多くの和歌に詠まれ、鎌倉時代の中期には、藤原定家の息子の為家が「雲かかるとの高根の夕立に戸無瀬の瀧の音まさるなり」とこの滝の様子を歌に詠んでいる。

室町時代の初期には、天龍寺の関山である夢窓疎石が天龍寺十境の一つとして戸無瀬の滝を三級滝と名付け、三段になって流れ落ちる様子は、江戸時代の「都名所図会(巻四)嵐山・法輪寺・渡月橋」や「都林泉名勝図会(巻五)法輪寺十三参・渡月橋」、歌川(安藤)広重の筆による「六十余州名所図会」などに描かれている。「戸無瀬」「戸無瀬」とも書かれる。

この滝は、江戸時代初めに角倉了以によって行われた保津川の開削工事によりその多くが削り去られたといわれている。現在、上流ではその残影を見ることができ、明治以降、災害防止のために行われた治山工事による規模縮小、禁伐に伴い常緑樹が繁茂し、対岸からほとんど見えなくなるなど、往事の姿をうかがい知ることはできない。

京都市

Tonase-no-taki (Tonase Falls)

Tonase-no-taki is a waterfall located on the south side of the Oh River, just south of Tonryū-ji Temple and upstream from Togatsukyo Bridge. This waterfall runs off Mt. Anahi into the Oh River, and has been the subject of waka verse since the Heian period.

At the start of the 17th century, the merchant Simonsokura Ryū undertook excavation of the Hozu River to improve river transportation. (The Hozu River becomes the Oh River as it exits the mountains, and then the Katsura River from Togatsukyo Bridge.) It is said much of the waterfall was cut away in the process. Traces of the original waterfall can be seen from further upstream.

京都府では、健全な森づくりを進めるため、市内で育った木のみを中心に、活木を採伐しています。



この取組は、環境省「健全な森林の取組」の一環として実施されています。

戸天龍瀑布

戸天龍瀑布は、嵐山から大堰川に流れ落ちる滝で、天龍寺蔵王権現堂の背後に位置していた。平安時代から多くの和歌に詠まれ、鎌倉時代の中期には、藤原定家の息子の為家が「雲かかるとの高根の夕立に戸無瀬の瀧の音まさるなり」とこの滝の様子を歌に詠んでいる。

夢窓疎石の歌

室町時代の初期には、天龍寺の関山である夢窓疎石が天龍寺十境の一つとして戸無瀬の滝を三級滝と名付け、三段になって流れ落ちる様子は、江戸時代の「都名所図会(巻四)嵐山・法輪寺・渡月橋」や「都林泉名勝図会(巻五)法輪寺十三参・渡月橋」、歌川(安藤)広重の筆による「六十余州名所図会」などに描かれている。「戸無瀬」「戸無瀬」とも書かれる。